



第107回 二次電池第2部会を開催

2023年6月2日（金）、浅利部会長（パナソニック）を議長に第107回二次電池第2部会をWeb会議で開催した。開会に際して、事務局よりBAJ競争法コンプライアンス・ルールを遵守することが確認されたのち、浅利部会長ならびに清水専務理事の挨拶があった。続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より、これまでの活動報告を行った。

1. 部会長/副部会長の互選

新部会長および新副部会長の選出結果、浅利部会長、大家副部会長が承認された。

浅利部会長から、以下の内容で挨拶された。部会運営に当たって、各社の貢献、審議なしでは成り立たないので積極的なコメントをお願いします。また、PFAS規制に対する5月30日第1回目パブコメ提出に対応頂きありがとうございました。第2回目パブコメもありますので、引き続き、ご協力お願い致します。

また、大家副部会長から、攻めるところは攻め、守るところは守り、メリハリをつけた活動を判断する立場でサポートしていきたいと挨拶された。

2. 専務理事挨拶

・5月31日、第55回BAJ定時総会を実施して、2022年度決算が全ての正会員会社に承認された。その後、臨時理事会で2023,2024年度の役員体制を決定した。村尾会長、只信副会長、長野副会長、清水専務理事が続投。経産省で推進している蓄電池戦略の継続性を踏まえて現体制を引き継ぐ。蓄電池産業戦略検討官民協議会から蓄電池産業戦略推進会議に名称が変わり、メンバーが絞られるが、引き続き、予算執行の進捗など討議が行われると思っている。

・欧州電池規則、欧州PFAS規制など新たな課題への対応が必要になってくるので、皆様の知恵を借りてしっかりやっていきたい。

3. 新委員の紹介

新委員の紹介と挨拶。

4. 各委員会報告

◆技術委員会

1) 各分科会報告

<リチウム二次分科会>

- ・ポータブル機器用リチウム二次電池の安全性規格のIEC62133-2改訂対応、JIS C 62133-2の修正対応。
- ・一次電池と形状互換性をもつ二次電池が市場に出ており、一次電池の誤充電による事故が発生している。規格の観点で、二次電池側の対応方法に関して意見交換した。

<LIB安全性技術WG>

- ・JARI電池標準化WG、電池セルSWGに参加。IEC62660の改訂は、2026年末IS化を目標に、今年度、NP提案、国際会議での改訂協議を開始

する。

- ・IEC 62660-3 改訂案については、DISC 試験の結果をもとに釘先端半径 R 値の影響を考慮した試験方法に改めることに決定した。

<据置 LIB 分科会>

- ・小委員会承認後の JIS C8715-2 改正原案を、解釈検討第 2 部会、電気用品調査委員会で説明し、引き続き JIS 化を進めることが了承された。
- ・IEC62933-5-3 CDV の BAJ コメントをリユース規格分科会と調整して TC120 国内委員会に提出。
- ・JIS C 8715-2 の対応国際規格である IEC62619 と同じ内容の表現で異なる用語を使用している箇所を確認して対応を進めている。

<非駆動用車載 LIB 分科会>

- ・IEC63118 ED1 CDV(非駆動用車載 LIB 性能)の日本提案コメントはコンビナーから賛同する回答を受領済。
- ・四輪自技会と補機 LIB 標準化に関する JASO TP 発行の意見交換会を実施。四輪自技会で WG を新設して活動開始、BAJ に参加要請があり WG に参加して 2025 年 3 月 TP 発行を目指す。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

- ・IEC61951-1 ED4 AMD(Ni-Cd 性能)、IEC61951-2 ED4 AMD(Ni-MH 性能)は IS 発行済み。ED5 開始について Q 文書発行。
- ・IEC62133-1 は 2024 年 11 月に IS 発行予定で進めることが SC21A WG4 会議で確認された。
- ・JIS C 8705/8708 の改正素案を作成中。

<産業用ニッケル水素分科会>

- ・IEC63115-1(産業用 Ni-MH 性能) ED2 開始が提案され、Q 文書が発行された。
- ・IEC63115-2(産業用 Ni-MH 安全)は、JIS C 63115-2 で独自に規定した筐体への難燃材使用の展開を推進している。

<PSE-WG>

- ・製品安全小委員会でポータブル電源の安全対策が審議された。電安法の規制対象外であり、JIS 規格・IEC 規格も存在しないことから、今後官民一体と

なり必要な規格整備の検討が開始され、BAJ に協力要請が来る可能性があり、まずは PSE WG が窓口となる。

- ・電安法および別表第九関連事項について、随時アーカイブ資料の取りまとめを行っている。
- ・製安課に対し海外製電池の規制対象化を要望しており、引き続き対応を進める。

<蓄電システム WG>

- ・国交省の建築設備計画基準、建築設備設計基準の令和 6 年度版改訂準備のため、個社から意見を収集して改訂意見を国交省に提出した。

<環境規格分科会>

- ・IEC63218(二次電池環境)、IEC60086-6(一次電池環境)の統合について、TC35/MT19 との連携を継続。

<リユース規格分科会>

- ・IEC63338 ED1(二次電池用リユース一般ガイダンス規格)CDV 回付済み、今年度 FDIS 移行を目指す。
- ・IEC63330(駆動用リユース製品規格)は JARI で主導、一般要求と残存性能評価 TR に対応中。

<CFP 規格分科会>

- ・IEC63369-1(産業用 LIB の CFP 計算方法に関する規格)は、CD2 に対し各国から提出されたコメント内容の確認を継続中。

2) 関連委員会の対応

欧州 PFAS 規制対応 WG

- ・欧州化学品庁(ECHA)から PFAS 制限提案が公開され、パブコメ募集が始まり、技術委員会傘下に WG を新設して、各社から選出されたメンバーで 4 月から議論を開始した。規制対象となる物質の用途、使用実態を取り纏め、代替品有無、環境・人体への影響リスクを中心に意見集約を行い、パブコメ素案を作成した。1 次電池 WG と合同で、5 月 30 日、第 1 回目のパブコメ提出を行った。

3) 技術委員会審議事項

SBA S 0405「二次電池用語」改正について

・各 WG・分科会から意見を集約した修正案を 2023/3 末に展開済み、追加の修正事項有無を確認のうえ、6 月末に最終案を確定する。標準化委員会の審議を経て、2023 年 9 月または 10 月に改正版を発行する予定。

◆国際電池規格委員会

・2023 年度は日本から多数の規格改訂を申請して、2023 年 10 月以降は大部分の規格が次の Edition に移行されることが予定されている。

・IEC62133-2(携帯機器用 Li 二次 安全)は 8,9 月から開発本格化。

・IEC63118(非駆動用車載 Li 二次 性能) FDIS 移行

・IEC62902(二次電池識別表示) 900cm³ 以上のものに表示義務が限定されているが、小型電池に対象が広がらないよう注意が必要。

・監視規格については、車載 IEC62660-1/-2/-3 ED3 を 2024 年から開始、蓄電システムリユース関連 IEC62933-4-4,-5-3 は 2024 年発行予定。

・SC21A 国際会議が 4 月に開催され、日本の改訂提案は WG で全て合意された。一方、韓国、インドの規格は否決されている。

◆国際電池輸送委員会

<国際電池輸送委員会>

(1)委員会体制

・前年度から 4 社が退会、1 社が入会し、今年度は 8 社体制で運営。委員長・副委員長の負担軽減のため、国際会議(国内対応委員会も含む)に参加するエキスパートを設置し、委員長・副委員長の業務から国際会議対応を分離。委員長・副委員長は輪番制とし、任期は 1 年。

(2) SAE-G27 会議(リチウムイオン電池を安全に航空輸送するための新包装基準策定 PJ)

・円筒型に限定した基準書 AS6413 の審議が行われている。200℃加熱で熱暴走しない起点セルの基準書での扱いについて多くの時間が費やされ、審議の結果、

SOC100%で 375℃まで昇温しても熱暴走しなければ、熱暴走しない結果を試験報告書として残し、報告書の取り扱いは規制サイドが検討することになった。基準書発行に向けた投票は今年度中に実施見込み。

(3) Li 電池ハザードベース区分検討

・4 月 24 日から 26 日、韓国ソウルで開催された UN インフォーマル会議に参加。7 月に開催される国連会議で報告する提案文書作成のための議論が行われた。類焼試験において、起点セルが 350℃でも熱暴走しない場合の取り扱いについての議論が中心であったが、最終結論には至らなかった。

(4) ICAO 危険物パネル WG23 会議

・5 月 15 日から 19 日、リオデジャネイロで開催された会議に参加。リチウム電池の航空輸送に大きな影響を及ぼす決定事項はなかった。主な提案審議は ①電圧、容量から Li 含有量(g)および Wh に換算する係数、計算式を国連マニュアルに盛り込む提案 ②リチウムイオン電池を搭載した車両について充電量を燃料ゲージの 25%以下にする提案 ③ナトリウムイオン電池の包装基準についての提案などがあった。

<小型全固体 LIB 輸送 WG>

・4 月 UN インフォーマル WG で、小型全固体 LIB が類焼試験で起点セルの熱暴走が起きないことを説明して、ポジティブな反応を得た。

・5 月 ICAO DGP WG23 に非公式文書を提出して、輸送要件の議論を要望するためのプレゼンを行い、輸送規制緩和の進め方について議長、事務局の協力を頂けることになった。

◆普及促進委員会

<普及促進委員会>

・民生用 LIB、ニッケル水素電池、鉛蓄電池の内容も盛り込んだ提言書を作成し、経産省電池産業室に説明をした。電池業界全方位での補助支援、研究開発優遇レベルの 50%までの引き上げは難しく、また関税課題については認識しているとコメントがあった。

・2023 年度も蓄電池産業協議会政策提言 TF と共同で提言書を作成する。8 月補正予算用、3 月年度予算

用として、各社で課題を整理した上で提言項目の絞り込みを行う。

<定置用 LIB 普及強化 WG>

・日本製 LIB について、安全、トレーサビリティ、性能の点から優位性が図れないか検討中。経産省に説明し、2023 年夏までに補助金要件の提案があれば採用可能性があるとコメントを頂いた。

<法規 WG>

・LIB 電解液総量規制適正化について、①車載用リチウムイオン蓄電池の取扱い ②リチウムイオン蓄電池の電解液の危険物としての取扱い ③屋内貯蔵所における非危険物の保管について消防と協議した。今後はモノづくり工程への規制緩和案の検討を再開し、協議を進める。
・消防庁予防課と対象火気省令(4,800Ah・セル)の見直しを進めており、電池種の特性に合わせた内容見直し、安全性検証実験を実施して、最終報告書およびパブコメ終了。省令改正に向けて消防庁にて推進中。

◆PL 委員会

(1)消費者庁の事故情報収集

・モバイルバッテリー：2014 年から増加傾向で 2018 年 7-9 月に 40 件/四半期とピークとなり、以降は 16~30 件/四半期で推移（2022 年 1-3 月除く）。2022 年の件数は前年より減少（-3 件）。2018 年 2 月 1 日より PSE マークの対象（1 年間の猶予期間）となったことで減少すると推測するが、傾向を注視する必要がある。
・スマートフォン：2017 年 51 件、2021 年 39 件に対し、2022 年 9 件まで減少した。
・ノートパソコン：2019 年 50 件をピークに減少傾向となり、2021 年は 2 件で大幅減少。
・電動アシスト自転車：2022 年には過去最高 43 件、今後も発生件数、傾向を注視する。
・充電式電気掃除機：2019 年スティック型掃除機の事故により増加したものの、2020 年に減少横ばいで推移。
・ポータブル電源：2019 年以降から増加傾向にある。事故内容は主に充電中の発火。PSE 対象外のため、PSE 不適合の電池により組み立てられた製品が海外から入るリスクがある。なお、ポータブル電源を製造・販売する国内

メーカーは少なく、国内市場では海外メーカーの製品が大半を占めている模様。販売数が急増しており、引き続き発生傾向を注視していく。

(2)その他

・表示ガイドラインに関する対応として、「民生用小型二次電池および産業用リチウム二次電池の安全確保のための表示ガイドライン」第 6 版の更新が必要かどうか、関連する家電製品協会等のガイドラインの更新状況を確認して対応を協議する。

◆再資源化委員会

・JBRC では回収出来ない電池の処置方法の検討として、身近に存在するホームセンターに着目し、「一般社団法人日本 DIY・ホームセンター協会」の正会員うち JBRC の会員ではない業者のホームページを調査した。引き取りで回収している業者、損傷した電池を対面回収している業者があり、今後、回収方法の法的根拠も含め、調査を進める。

◆広報総合委員会

1. 委員会等開催

・でんちフェスタを 4 年ぶりに日本科学未来館で開催した。

2. 活動報告

(1)PR 活動

①コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止②自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進③小型二次電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起を重点的に訴求。

(2)キャンペーン

・電池を正しく使いましょうキャンペーンを 7 月に 3 週連続で上記 3 テーマを毎日新聞に掲載予定。

(3)イベント

・でんちフェスタをコロナ前のフルスペックで関西地方での開催を計画。

・手作り乾電池教室は 16 件の応募があり、順次開催する予定。

◆国際環境規制総合委員会

* 地域別環境規制アップデート

- ・欧州：PFAS 制限提案の公開協議開始、電池規則案への欧州議会投票日程
- ・北米：メイン州及びマサチューセッツ州の PFAS 規制、ワシントン州全電池回収法。
- ・アジア：特記事項なし。

* 今後の活動計画

- ・9月 ICBR（国際電池リサイクル会議。バレンシア、スペイン）に2名派遣。
- ・11月 リサイクル施設の工場視察を計画。

5. JBRC 報告

I. 会員状況

5月16日現在：385法人（前回報告と同じ）

II. 回収状況（2022年度実績）

- ①回収量：1706t、前年比90%、2年連続前年比減少。
- ②正極系リチウムイオン電池回収量はCo系が減少傾向であるが、下げ止まり感あり。
- ③再資源化率実績の傾向は変化なし。

III. 具体的施策実施内容

1. 小型充電式電池の更なる安全な回収・収集運搬業務の強化

(1) 排出事業者への取り組み強化

・不安全な電池の混入排出者に改善指導継続、年間47件(前年比+5件)で増加しているのでさらなる啓発活動実施。

・2022年度はダイソンの掃除機、マキタの電動工具で、非純正電池による熱損傷事故が2件発生。

(2) 自治体と産廃排出協力店への啓発

・未登録373自治体のうち169自治体にヒアリングを実施して、48自治体に登録案内書送付。

・一般消費者からの不満撲滅として、回収拒否の協力店に改善指導を継続。前年比30件減少しており、指導の効果はでている。

(3) 一般消費者へのリサイクル意識向上

・クイズキャンペーン、展示会、出前授業を実施。

2. 再資源化業務(リサイクラー)の持続性強化

・エコシステム秋田(株)を広域認定の再資源化処理業者として新規追加したが、広域認定の環境省審査に時間がかかっている、運用開始できていない。

・リサイクラー会議を4月12日に開催して、JBRC方針展開と実施事項を共有。

3. 管理・運營業務の盤石化

・2024年度開始する有償回収に向けたシステム対応準備、2026年度導入予定の新システムへの切り替えに向けた検討を開始した。

IV. 2023年度事業方針

1. 安全とコンプライアンスの徹底

・危険電池、対象外電池の混入防止の啓発として、排出事業者にメルマガを活用した注意喚起を開始。

2. 再資源化活動の深耕と強化

・一般消費者のリサイクル意識を向上させるため、低年齢層には出前授業継続、高齢者にはLINEを使用した広告企画を広報総合委員会の協力を得て検討中。

・一般廃棄物とニカド電池のリサイクラー拡大についての検討を継続。

3. 持続可能な経営体制づくり

・2024年予定の有償回収事業、回収・会員管理システムのスクラップ&ビルド、デジタル活用を進めていく。

V. 2023年4月回収実績

・回収量は168tで、前年同月比、計画比ともに101%で持ち直している。

6. 事務局報告

1) 連絡事項

・欧州PFAS規制対応のパブコメを5月30日に提出した。6月8日、経産省素材産業課、電池産業室を訪問し、パブコメの内容説明と政府・他団体の状況など情報交換を行い、関係者に共有する予定。また、8月に2回目のパブコメを提出する予定。

・欧州電池規則が6月13日欧州議会で投票され、7~8月に正式公布されることが想定される。BAJの対応としては、法律で公布されるので個社での個別対応を基本

とするが、経産省等政府機関への働きかけはBAJが窓口機能を果たす。また、EU委任法のパブコメ対応等は別途相談させて頂く。

・経産省からバッテリーメタルのリサイクルの推進について以下3点の依頼があり、①リサイクル材の使用・利用促進②促進・導入が困難である理由③リサイクル産業についての意見、コメント回答のご協力をお願いします。

2) 次回開催日程

第108回：2023年8月28日(月) 13:30～16:30 機械振興会館

以上

2023年度 第1回一次電池部会を開催

2023年6月14日(水)、木村部会長(マクセル株式会社)を議長に2023年度 第1回一次電池部会を機械振興会館で開催した。開会に際して、木村部会長よりBAJ競争法コンプライアンス・ルールに則り、部会進行する旨の宣言がなされた。清水専務理事の挨拶、続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者により、これまでの活動報告を行った。

1. 木村部会長の挨拶

2023年3月10日に電池工業会の理事会が開催されました。一次電池部会の内容に関しては、私から説明させて頂きました。清水専務理事にもお力添えを頂き、追加のコメント等を頂いたこともあって、2023年度の予算は無事認可となっております。

既に、技術委員会におきましては、京都会議が開催されておりますが、各委員会におかれましても、世の中がニューノーマルという形で動き始めておりますので、予約等は早めに進めて頂き、この工業会が無事成立するよう、よろしくお願い致します。

2. 清水専務理事の挨拶

皆さん、こんにちは。専務理事の清水です。

久しぶりの対面会議です。

5月31日に第55回電池工業会の定時総会を実施しました。

定時総会は、理事プラス正会員計14社の出席を頂いたことから、ほぼこの場にいらっしゃる会社のトップの方にご出席頂いたことになろうかと思えます。

2022年度決算の報告を行い、正会員含めて承認頂きました。

これで、理事会から総会まで全て終了した訳ではありますが、既に活動は順次スタートしています。

是非、皆様の力添えをよろしくお願い致します。

総会後には、臨時の理事会を開催しました。

2023～2024年度の役員体制については、会長はGSユアサの村尾さん、副会長はパナソニックの只信さん、FDKの長野さん、専務理事は私ということで、続投を決定させて頂きました。

この趣旨は、現在開催されている経済産業省における蓄電池戦略検討のための官民協議会が、今後、蓄電池産業戦略推進会議と名称が変わり、蓄電池戦略について更に検討していく中で、引き続き、この場に出席する必要がある為です。

もう一件、一次電池部会の技術委員会では、欧州のPFASの対応をさせて頂いています。

電池にとって、その材料の有無で電池が作れるか作れないかといったことですので、我々としては、パブコメに対して、きっちり意見を述べていく必要があります。

第一回目のパブコメ提出が先日終了し、経済産業省の素材産業課にも報告致しました。

引き続きご支援の程、お願い致します。

欧州電池規則にも言えることですが、事業計画外の対応が必要ですので ご協力をお願い致します。

3. 新委員の紹介

新委員の紹介と挨拶。

4. 審議事項

1) 各専門委員会の活動報告

【資料に基づき報告されたので、資料に記載されている詳細は割愛する】

①ボタン電池回収推進委員会

下記の報告があり、承認された。

* 2022 年度の回収実績

- ・協力店数は減少、回収量は前年並み。
- ・サンプリング調査：空気亜鉛電池の水銀含有率の低下を確認。

* 法改正対応

- ・ COP5 対応：条約事務局主催 Information Session（3/22）で TWG+ の共同意見書を説明。
- ・国内法：第 3 回政府検討会（3/15）に参加。
- ・BAJ 情報提供自主ガイドライン改訂：全会員の無水銀化完了を盛り込み第 3 版として発行。

②器具委員会

下記の報告があり、承認された。

* 委員会開催実績について

* 2023 年度 事業計画について

* BAJ ホームページ「携帯電灯の正しい使い方」の改訂検討の進め方について

* BAJ 規格「SBA S 1601 携帯電灯」改正の進捗について

* 今後の活動予定について

③資材委員会

下記の報告があり、承認された。

* 2023 年度の委員会体制について

* 2023 年度活動テーマについて

* 2023 年度活動計画の詳細状況について

* 主要 4 材料（亜鉛・リチウム・ニッケル・コバルト）の需給・価格動向の調査状況について

* コンプライアンス（下請法他）順守に関する意見交換結果について

④消費者委員会

下記の報告があり、承認された。

* 2023 年度消費者委員会構成員について

* 2023 年度事業計画について

* 2023 年度活動計画について

* 支援物資 供給可能数の定期更新結果および支援要請結果について

⑤ P L 委員会

下記の報告があり、承認された。

* 2023 年度活動内容および委員会開催状況について

* 「2022 年度 一次電池重要クレーム情報まとめ」の進め方について

* NITE 速報/国民生活センター 事故情報の共有結果について

* PL 関連の情報共有内容について

* 「一次電池安全確保のための表示に関するガイドライン」改正の進め方について

* 「乾電池使用機器の電池室・接点 安全設計ガイドブック」改訂案のレビュー結果について

⑥技術委員会

下記の報告があり、承認された。

1. JIS 規格原案作成

・ JIS C 8514 5/22 JIS C 8514:2023 が発行された。

・ 乾電池使用機器の電池室・端子安全設計ガイドブックの改訂素案を作成。

2. IEC/TC35（一次電池）国際規格原案作成 5月23日～25日開催 IEC TC35 国際会議（京都）が開催された。

・ IEC 60086-1 次版第 14 版の課題審議。

・ IEC 60086-2 次版改訂課題として、京都会議で日本提案の AA と AAA の放電様式変

更は、Q 文書で確認することになった。

- ・IEC 60086-4 ED6 CD 対応として日本コメント審議をし、4/27 投票した。京都会議では、時間内に CD コメント審議が終了しなかったことから継続審議の Ah hoc が設定され 6 月～7 月で別途調整。
- ・IEC 60086-5 次版改定作業開始のための Q 文書を発行予定。
- ・IEC62281 京都会議で 2025 年春季会議まで活動を中止することで合意。
- ・MT17 京都会議では、swallowable batteries への表示について、86-4 と 86-5 の整合、リスクや市場実態を考慮し、コイン・ボタン電池以外の電池の対象除外について基本合意した。

3. コイン形リチウム二次分科会

- ・IEC 61960-4 ED2 CDV (21A/829/CDV) が発行された。
- ・4/18 に IEC SC21A WG3 会議がフルリモートで行われた。来仙 PL より CDV のレビューを実施したが、質問やコメントはなく、次回会議（2023 年 10 月）で CDV コメントを審議することで合意した。

* その他事項

欧州 PFAS 規制パブコメ対応
技術委員会傘下に専門 WG を設置、パブコメを作成して、第 1 弾を 5/30 に投票した。
今後第 2 弾に向けた準備を行う。

⑦ 国際環境規制総合委員会

下記の報告があり、承認された。

* 地域別環境規制アップデート

- ・欧州：PFAS 制限提案の公開協議開始、電池規則案への欧州議会投票日程
- ・北米：メイン州及びマサチューセッツ州の

PFAS 規制、ワシントン州全電池回収法。

・アジア：特記事項なし。

* 今後の活動計画

- ・9 月 ICBR（国際電池リサイクル会議。バルンシア、スペイン）に 2 名派遣。
- ・11 月 リサイクル施設の工場視察を計画。

⑧ 広報総合委員会

下記の報告があり、承認された。

1) 委員会等の開催

- ・委員会は、毎月開催（年 12 回）
- ・3 年ぶりに「でんちフェスタ」を日本科学未来館（東京都江東区）で 3/18 開催

2) 活動報告・計画

- ・PR活動：各電池系の重点テーマ訴求を推進
- ・キャンペーン：「電池は正しく使いましょう」キャンペーン、毎日新聞に啓発記事を掲載予定
- ・イベント活動：でんちフェスタをフルスペックで開催検討
- ・情報発信：機関紙「でんち」を毎月発行

5. 事務局報告

1) 統計データ報告

2022 年度 1Q～4Q（4 月～3 月累計）の一次電池およびリチウム二次コインの販売数量・販売金額の実績動向について報告。

2) 委員登録

2023 年度 電池工業会 一次電池部会 委員登録（2023 年 4 月 7 日更新）

3) 次回開催日程

2023 年 9 月 13 日（水）13:30～
Microsoft Teams 会議

以上

2023年6月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
議特、別他会	7日(水)	新種電池研究会	新種電池に関する情報交換等
	16日(金)	広報総合委員会	キャンペーン内容確認、でんちフェスタ開催内容検討
二次電池部会	2日(金)	自動車鉛分科会	IEC60095-8「補機用鉛蓄電池」委員会原案審議 等
	9日(金)	電気車鉛分科会	SBA S 0802「小型電動車用鉛蓄電池」改正審議 等
	13日(火)	据置きアルカリ分科会	規格情報共有化
	14日(水)	自動車技術サービス分科会	TS-004改定審議 等
	16日(金)	充電器分科会	日本規格協会主催 JDT研修
	19日(月)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域234号変更申請および新規広域認定取得打ち合わせ
	20日(火)	据置鉛分科会	SBA S 0601「据置鉛蓄電池の容量算出法」改正案審議 等
	22日(木)	小形鉛分科会	日本規格協会主催 JDT研修
二次電池第2部会	2日(金)	二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議
	7日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池システムの普及強化に向けた戦略実現検討
	14日(水)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	14日(水)	蓄電システムWG	建築設備計画基準/設計基準改訂検討
	15日(木)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	20日(火)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
	20日(火)	リチウム二次分科会	JISC62133-2からIEC62133-2への提案内容審議
	21日(水)	普及促進委員会	蓄電池システムの普及促進に関する提言検討
	21日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池システムの普及強化に向けた戦略実現検討
	22日(木)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応
	22日(木)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	27日(火)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応
	28日(水)	国際電池規格委員会	IEC規格 ANSI規格等の審議対応
	29日(木)	ニカドニッケル水素分科会	ニカド・ニッケル水素電池 性能規格の改訂審議
29日(木)	リユース規格分科会-リユース・リサイクルTF合同会議	リユース規格に関する審議	
一次電池部会	1日(木)	規格委員会	IEC60086-3、乾電池室設計ガイドブック改訂審議
	2日(金)	技術委員会	国際幹事、JIS改正、IEC審議状況、コイン形リチウム二次関連報告
	14日(水)	一次電池部会	各委員会からの報告および審議
	22日(木)	PL委員会	2022年度重要クレーム情報に関する審議
	28日(水)	規格委員会	IEC60086-1、2、3、4、5審議
	29日(木)	規格委員会	MT17審議、IEC62281情報共有
	30日(金)	コイン形リチウム二次分科会	日本時計協会様との情報共有 (IEC61960-4 Ed2、IEC/TC35京都会議)

4月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2023年4月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

2022年7月より経済産業省の機械統計は「アルカリ蓄電池(ニッケル・水素電池)」「その他のアルカリ蓄電池」は「アルカリ蓄電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	338,437	121,660	87%	129%	1,331,618	498,886	89%	131%
一次電池計	203,591	8,507	83%	93%	768,509	32,231	82%	97%
酸化銀電池	56,481	1,346	87%	91%	221,808	5,413	91%	103%
アルカリ乾電池計	89,846	3,707	87%	89%	337,841	13,721	88%	95%
単 三	-	-	-	-	-	-	-	-
単 四	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウム電池	57,264	3,454	75%	98%	208,860	13,097	67%	97%
二次電池計	134,846	113,153	93%	133%	563,109	466,655	100%	134%
鉛電池計	2,079	14,212	97%	104%	9,964	72,190	100%	110%
自動車用	1,584	9,831	100%	107%	7,685	47,222	99%	108%
その他の鉛蓄電池	495	4,381	88%	98%	2,279	24,968	101%	114%
アルカリ蓄電池計	33,133	25,995	81%	128%	131,926	96,626	81%	119%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
その他のアルカリ蓄電池	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン蓄電池計	99,634	72,946	98%	142%	421,219	297,839	108%	148%
車載用	85,935	66,154	115%	165%	352,944	262,650	127%	170%
その他	13,699	6,792	52%	61%	68,275	35,189	61%	76%

4 月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2023年 4月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸出）	180,454	62,019	89%	102%	758,624	232,323	86%	99%
一次電池計	85,372	2,823	79%	85%	363,394	11,855	79%	91%
マンガン	0	0	-	-	35	7	-	-
アルカリ	7,675	156	62%	71%	49,050	951	87%	105%
酸化銀	47,358	1,116	105%	115%	185,038	4,248	98%	116%
リチウム	30,339	1,542	60%	83%	129,271	6,546	61%	89%
空気亜鉛	0	0	-	-	0	0	-	-
その他の一次	0	10	12%	4%	0	102	5%	9%
二次電池計	95,082	59,195	100%	103%	395,231	220,468	94%	100%
鉛蓄電池	101	767	64%	67%	436	3,602	74%	83%
ニカド	206	75	90%	108%	1,189	380	112%	154%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	-	-
ニッケル水素	6,666	13,124	45%	107%	29,208	42,830	55%	95%
リチウムイオン	83,142	36,256	111%	113%	348,237	145,544	106%	114%
その他の二次	4,968	8,974	96%	75%	16,160	28,113	44%	64%
全電池合計（輸入）	126,910	38,642	101%	125%	497,046	158,135	87%	140%
一次電池計	119,521	2,266	102%	103%	465,850	9,233	86%	106%
マンガン	6,906	107	59%	69%	35,823	627	85%	119%
アルカリボタン	3,368	28	144%	161%	12,775	110	136%	132%
アルカリその他	91,768	1,408	102%	113%	356,716	5,379	85%	102%
酸化銀	72	4	34%	59%	530	23	69%	81%
リチウム	11,771	607	126%	88%	40,319	2,385	80%	104%
空気亜鉛	5,635	110	127%	126%	19,680	488	106%	118%
その他の一次	0	2	7%	33%	7	221	45%	550%
二次電池計	7,390	36,376	93%	126%	31,196	148,902	98%	143%
鉛蓄電池	729	4,460	84%	103%	3,252	18,573	100%	112%
ニカド	47	127	39%	75%	189	714	65%	141%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	-	-
ニッケル水素	1,956	475	79%	98%	7,403	1,682	87%	95%
リチウムイオン	4,651	27,344	106%	126%	20,218	109,714	103%	142%
その他の二次	6	3,971	11%	182%	133	18,219	64%	221%